

第3回 下北地区統合校検討委員会
【会議録】

令和6年2月5日（月）

むつ市企画政策部企画調整課

1. 日 時 令和6年2月5日(月) 14:00～15:30

2. 場 所 むつ市役所 大会議室A

3. 出 席 者 【委員】

阿部 謙一	むつ市教育委員会	教育長
内田 大輔	むつ商工会議所	会頭
半田 義秋	むつ市川内町商工会	会長
越後林 達巳	大畑町商工会	会長
千葉 栄美	大湊高等学校	校長
山田 誠	むつ工業高等学校	校長
岩渕 崇	むつ市連合PTA	会長
石田 佳奈	むつ市連合PTA	副会長
堺 祐介	大間中学校PTA	会長
濱田 大臣	むつ工業高等学校PTA	会長
又村 彰	大湊高等学校同窓会	会長
木村 努	むつ工業高等学校	同窓会 会長
佐々木 一浩	大湊高等学校	後援会 理事長

欠席：高橋 興	青森中央学院大学	特任教授
大久保 斉	むつ市連合PTA	副会長
畑中 貢	東通中学校PTA	会長
古川 誠	風間浦中学校PTA	会長
伊藤 輝貴	佐井中学校PTA	会長
種澤 博之	大湊高等学校PTA	会長
吉田 成人	むつ工業高等学校	後援会 理事長

代理出席者：工藤 秀吾 佐井中学校校長
(佐井中学校 伊藤PTA会長代理)

【オブザーバー】

○青森県教育委員会

外崎 学	高等学校教育改革推進室	室長
森 三奈子	高等学校教育改革推進室	室長代理
道川 三若子	高等学校教育改革推進室	指導主事

○町村

奥島 涼子	東通村教育委員会	教育長
山本 尚樹	佐井村教育委員会	生涯学習課長
小原 広基	横浜町教育委員会	教育長

【事務局】

福山 洋司	企画政策部	政策推進監	
品田 加奈子	企画政策部企画調整課		主幹
小林 晋	企画政策部企画調整課		主任主査
西村 星南	企画政策部企画調整課		主事
藤井 ほのか	企画政策部企画調整課		主事

1. 開会

2. 事務連絡

- ・新たに委員に就任した むつ市連合PTA副会長 石田佳奈委員、大久保斉委員の紹介
- ・オブザーバー出席者の紹介

3. 議事

《高橋座長欠席のため、座長より指名のあった阿部委員による進行》

- ・事務局より、今までの検討委員会で見えてきた課題について資料に基づき説明

資料：第1回会議(令和5年6月29日)、第2回会議(令和5年9月14日)で見えた課題
(福山政策推進監)

資料は、「第1回会議、第2回会議で見えた課題」をご覧ください。振り返りのような資料となっております。

「1、子供達が望む学科、地域が必要とする学科について」ということで、学科については総合学科3学級、工業科2学級と決定しておりますので、総合学科の系列や工業科での資格取得に必要な科目の検討が必要となると考えております。

検討課題としては、総合学科の系列や選択科目については、地域特性を活かした科目、今後求められる人材育成に必要な科目の設定が必要であると考えております。

地域の特性としては、エネルギー関連施設、海洋研究機関及び海上自衛隊大湊基地が所在しているというのが意見として出た特徴でありました。

次に、第三種電気主任技術者認定校の継続という事で、これは兼ねてより要望の多かった項目となっております。また、その他の資格取得に活かせる科目の保証が必要。校長権限で地域と相談なく途中で変わる事のないように、県教委として科目の保証が必要。特色ある教科を教えることができる教員の配置が必要。これらのことを早めに決めて、教員確保、必要な施設整備等を行う必要があるという意見がございました。

次に、「2、第3期実施計画(田名部高校、大間高校、新設校の今後)を見据えた校舎のあり方について」ということで、人口減少がどんどん進んでいく中で、それらを踏まえた校舎を検討すべきという事で、検討事項としては「青森県立高等学校魅力づくり検討会議」や「青森県教育改革有識者会議」の理念をいち早く実践する高校として整備する必要がある、様々

な用途で使用できるオープンスペースの設置が必要、全教室のオンライン授業に対応できるようにしてほしい、田名部高校や県内他校に留まらず、世界中の学校と交流できる環境整備も必要ではないかと考えております。

「3、子供達が行きたいと思える新校舎のデザインについて」ということで、子供達が愛着と誇りを持つ校舎、あの学校に行きたいと思われる校舎、学校は地域づくりとも大きく関係するため、地域の意見を取り入れ、地域が必要とする学校であるべきということで、検討事項として、県内初の総合学科と工業科の統合校として、全国から生徒を集められるような個性ある校舎とすべきではないか、専門学科の学びに必要な施設整備が必要、様々な用途で使用できるオープンスペースの設置、全教室のオンライン授業対応に必要な機器を設置し、田名部高校はじめ、県内他校との授業連携を図ることが必要ではないかと考えております。

「4、大湊高校の現校舎や財産等の利活用について」ということで、現時点で県教委から統合後の方針は示されておらず、田名部高校大畑校舎、大湊高校川内校舎も利活用はされていない状況にあるということで、検討課題として、大湊高校の校舎、グラウンド、生徒会館の利活用や、大学の学部などを誘致できないかということが挙げられます。

「5、その他」として、「①開設準備委員会、開設準備室について」ですが、統合校開設に向け、県として方向性を定めた上で、令和9年度には施設設備がしっかりと校舎を建てていただきたいということで、検討課題としては、1年でも2年でも前倒しして、早期に県教委としての検討をはじめて欲しいということがございます。

「②大湊高校、むつ工業高校、新設校が重複する期間について」ですが、令和9年度から10年度において、3つの高校で生徒に差異が出ないように取り組んでいただきたいということで検討課題として、授業のほか、部活動等3つの高校でどのように取り組むのかということがございます。

「③部活や必要な活動場所、設備等について」は、検討課題として、どのように部活を統合していくのか、中学生の進路検討にも影響する。野球場と陸上競技場は併置案となっているが、別々とすべきという課題がありました。

「④寮や下宿、スクールバスについて」ですが、むつ市では、既に統廃合がなされた川内地区、大畑地区及び脇野沢地区で、通学費の負担が大きい。大間町、風間浦村、佐井村の子供達にとって、むつ市内の高校に通うには時間もお金もかかる状況ということで、検討課題として、下北や県内・県外から通う子供達のための寮や下宿を確保してほしい。県が進める統合で影響を受ける生徒用に、スクールバスを運行して欲しいという声がございました。

「⑤統合校の後援会のあり方について」ですが、検討課題として、両後援会は合併するか、吸収か、両方解散して新設かということで、県内の事例があれば紹介して欲しいという声がございました。

以上、簡単ではございますが、会議の振り返りということでご説明しましたが、我々事務局に会議以外で届いた声も含めてのまとめ資料となっております。

各委員からの意見発表

①総合学科の系列や選択科目、資格取得に活かせる科目等について

(阿部委員)

本日はまず、科目等について、そして子供達が行きたいと思える新校舎のあり方についての2点に論点を絞って皆様の声を集約して行きたいと思います。

それ以外の内容につきましては、③その他でご発言いただきたいと考えております。

では、「①総合学科の系列や選択科目、資格取得に活かせる科目等について」ご意見を伺う前に、千葉委員、山田委員から現在の高校の資格取得状況等についてご説明を賜りたいと存じます。

まずは、千葉委員お願いいたします。

(千葉委員)

大湊高校の千葉です。A3の資料を用意させていただきました。1枚は本校の進路状況、令和3年度の卒業生、令和4年度の卒業生、令和5年度は12月末までの段階の進路状況を各系列ごとにまとめたものになります。

人文や自然系列だから大学、情報やビジネスコースだから就職ということではなく、人文や自然の中からも民間就職や公務員や専門学校へ進んでいますし、情報やビジネスコースの中からも大学に進学している様子が見られるのではないかと思います。今年度の途中ではありますが、弘前大学や福島大学、筑波大学などの国公立大学や、私立大学、公務員等様々検討しております。

もう一枚のカラーの資料をご覧ください。令和3年度の1、2、3年生がどんな資格を取得したか、2年生からは系列、コースに別れますのでそれぞれの系列でどんな資格を取得したか、令和3年度から令和5年度12月までの状況を記載しております。

誤解をよくされるのですが、高等学校の授業は資格取得のためにあるのではなく、資格は授業の外で勉強や資格試験が行われます。もちろん簿記という授業があるので、簿記の基本は学びますが、それが検定の練習にはなり得ません。例えば英検があって、英検に合格させたいからといって英語の授業に英検の勉強をしないのと同じです。そのところを誤解のないようにしていただきたいと思います。

生徒達はいろいろな資格に挑戦しております。ビジネス検定のようなものを人文系列などの生徒達が受けます。

つまり、こういう検定があるよとアナウンスすると、自分もそういう資格に挑戦してみようと思って、講習などを受け資格を受けるといった感じですので、系列ごとに大きな特徴はありますが、そこを越えて様々な資格を取得しているというのが現状です。

福祉に関しては、何年も前から、高等学校の福祉コースを出ても介護福祉士の資格を取れない状況となっておりますので、2年生の夏の土曜日に何日もかけて研修を受け介護職員初任者研修を受けて、介護職の勉強をする状況となっております。明確な職業に関わるような資格を取れているというわけではないです。それでも生徒達は様々な資格に挑戦しているということを資料で見たいと思います。

(山田委員)

むつ工業高校の山田です。学校案内の資料に基づきながら、状況等をお知らせいたします。現在、機械科、電気科、設備・エネルギー科の3学級ですが、統合校では機械科、電気・エネルギー科の2学級となります。

それでは、資料を開いていただいて、機械科について記載しております。現行の機械科ですが、写真にありますようにメカニカルが強い部分になっております。ここには出てきませんが、多少ロボット関係や制御など、パソコン等も含めて学習しております。学習内容はその中段にあるようなかたちで、中段の右側に資格・検定があります。下の方には、過去3年分の就職先、進学先等が記載されています。中段に載っている和田さんは、風間浦中学校の卒業生です。

次のページをめくっていただくと、電気科、次に設備・エネルギー科が載っています。学習内容としては、電気科は、主に言いますと「きょう電」です。我々の今使っている電気のエネルギー、発電から各家庭までに持ってくる電気をイメージしていただければと思います。

設備・エネルギー科は、写真を見ていただければわかりますが、我々の家庭のインフラ、上下水道からエアコン・空調様々な部分が含まれています。

「資格取得状況について」の資料の説明に移ります。卒業学年取得状況ということで、一番右側が現段階の3年生、令和5年度卒業予定の生徒の資格取得状況になります。これは1年次から2、3年と3年間かけて取得した数になります。多いところでいいますと、令和5年度の上から3番目「計算技術検定3級」がありますが、これは資格取得の勉強をするために一番難度の低いものを選び、生徒が自分で目標を持って学習して、自分の学習の成果としてその資格を取り、取った成就感を自分で持ちながら次の学習に繋げていこうというスタイルになります。数が多いところはそういう資格取得を目的としていますが、資格取得をひとつの学習の媒体として、生徒の人格形成や学習の基盤を作るため、そして高校に入って自分で努力をして、伸びたことを実感するためのひとつの媒体として資格取得をしている状況でございます。

2ページには、実用英語技能検定準2級から記載されていますが、工業以外の検定も、子供達が興味を持って受けています。先生方は学習以外でも指導を行っているという部分になります。

下のところに、在籍数を記載しておりますが、令和2年度の卒業のところは機械科、電気科、電子科、設備・エネルギー科の4学科でしたが、令和3年度で4学科が最後になります。令和4年度以降は3学科になります。そのため今後出てくる数字が令和3年と4年で大きく変わってきます。

それでは次のカラーの資料の説明に移ります。これは、就職や進路の一覧となります。令和元年から5年分数字だけで記載しております。学校の大きな特徴が読み取れると思います。上のグラフですが、下の青い部分、これが就職を希望している生徒の数です。オレンジの部分は4年制大学を含めた進学です。本校の割合としては、大体働くという目的意識を持って入学する生徒が多いため、このようなグラフになっています。その中の内訳ですが、管内と書いてあるのはむつ市内、管外というのは県内のむつ市外ということです。令和5年度

の部分を見ていただければわかると思いますが、管内が 7 名、管外が 17 名、県外が 29 名となっています。

次の 1 ページから 10 ページまでの資料は、各年度ごとの詳細になります。1 ページを見ていただくと、令和 5 年度の卒業生の県外 29 名の生徒が内定を決めた会社の一覧になります。あとは県内、公務員、2 ページには進学等が載っています。

まとめますと、就職を希望する入学者が多く、3 年間で自分達で目標を叶えていくということが資料を見ていただければわかると思います。

(阿部委員)

ありがとうございました。委員の皆様から、ただいまの説明に対してご質問等ございますでしょうか。

(半田委員)

私は青森県商工会連合会で人事を担当していますが、ここ 3 年間下北の高校で商業簿記の高校をやっている高校はないですね。閉校した川内高校には、商業簿記があった。下北に商業簿記を教える科目があってもいいのではないかと考えている。

(阿部委員)

ご意見として承ります。

(阿部委員)

他にありますか。

それでは、委員の皆様からご意見をお聞きしたいと思います。

(半田委員)

下北地区は原子力関係の会社がありますよね。原子力の教科について、むつ工業高校では教えていますか？

(山田委員)

原子力に特化したものではありませんが、設備・エネルギー科で実習の中で勉強したり、エネルギー概論という教科の中で勉強しています。資料の令和 5 年度卒業生進路先一覧を見ていただければわかりますが、県内ですと原燃関係に就職した生徒もいますし、県外は国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構や「NAT」という会社に就職しています。

(半田委員)

いろいろ説明をいただきましたが、県教委にお願いしたいのは、この下北地区は特別な地域でありまして、各地域にないもの、それは原子力だと思っている。それを学ぶことができ

る統合校を作ってほしい。原子力の会社は増えていくと思いますので、高校の時に勉強すれば就職した後に役に立つのではないかと考えている。

また、そういうところに就職するには、専門の大学に行くとは思いますが、大学に行って全く初めての教科を習うより、高校生の時に勉強しておけば必ず役に立つと考えている。

統合校には下北に特化した科目が欲しいと考えていますので、検討をお願いします。

(阿部委員)

ありがとうございました。その他にこういう科目があればいいなどの要望がありましたら、ご発言をお願いします。

(木村委員)

専門的な科目という部分では、例えば統合後に、選択科目の中で、工業系の科目と人文などの科目を選べるかたちは取れるもののでしょうか？

(阿部委員)

総合学科と工業系の専門学科があって、互いに学ぶことができるかどうかという内容でよろしいでしょうか？

(山田委員)

昨今、異種協業など様々な部分で、今まで専門が縦割りで動いていたものが、他種との協業によって幅が出るという部分があります。学習の中身についても、今言われたものを取り入れながら、総合学科と工業科、他学科ですが、生徒達には様々な学びの場が提供できるのではないかと、千葉校長先生とも時間がある時に話をしているところであります。

いろいろな学習の機会を生徒達に与えたいという地域の皆様の気持ちは高校も一緒です。

学校でも教育課程の許す限り、いろいろな選択、学習の場を提供したいと考えております。

(越後林委員)

前回もお話しましたが、商工業、事業者として参加していますが、学校で何を学ぶのか、ひとつは生きていく力をつけてほしいという考えを持っています。

社会に出た時にあまりにも弱弱しく、温室の中で育ってしまうと非常に厳しい。いろいろな問題にぶつかった時に解決していく力をつけてほしい。簿記など、いろいろな選択肢を生徒に与えてほしい。それと同時に、経済、フィナンシャルプランナーなどの道もあるし、一番大事なものはお金の出し入れです。若い子はお金に関して安易な考えを持っている。近い将来も大事だが、遠い将来の事を考えながら、自分が今何をすべきなのかを考えることができる力を持つための学習をしてほしい。起業精神を育むような教育も受けられればいいなど。子供達の将来の生きる力に繋がると思います。

(半田委員)

下北は四方を海に囲まれているが、水産関係の科目がない。そういう科目があってもいいのではと思う。統合校は幅広く生徒を集めるというような学校であってほしいと思います。

(堺委員)

大湊高校に聞きたいのですが、専門学校に行く生徒もいると思いますが、特に家庭コースの生徒は調理の専門学校に行っているのでしょうか？

(千葉委員)

保育の専門学校や、調理系の専門学校が多いように思います。

(堺委員)

調理に関心を持った生徒が、できれば3年間で調理師免許を取得できるような環境があれば、専門学校に行く期間と就職するまでの期間が短くなると思います。

(岩淵委員)

高校を選択する中学生が、高校までの交通費の関係で、東奥学園高校に通学する生徒が増えていると聞いたことがあります。この学校は、学校までの通学バスが整っているらしく、親に相談し選択する生徒が多い。

科目等については、全部を網羅するのは難しいとは思いますが、私立の高校が行っているような学科を統合校に盛り込むことが可能であれば、下北から人が流れるのを防ぐひとつの方法になるのかなと思います。

(阿部委員)

子供達にニーズがあって、現に他市町村の高校で開設されている科目等があるのであれば、新設校で検討していただきたいというご意見で受け止めさせていただきます。

(千葉委員)

子供達が将来この地域のこういう仕事に就いてほしいから、こういう学びをしてほしいという大人の意見はごもっともだと思いますが、実際にこの仕事に就けばいいなと大人が思っていることと、生徒達が興味関心を持つことが、高校の現場で見ていると、ずれがあるように感じています。

例えば、本校の保護者で介護関係に勤めている方々が非常に多いです。だからといって、大湊高校で福祉コースがありますが、次年度の3年生は4名だけになります。2年生で福祉を選ぶ子は2名だけです。専門の教員を揃えてそういう実習をしていますが、実際に生徒達がそういう仕事を選ぶかというのは、少しずつ来てきます。おそらくこの先5年10年を考えると、私たちがこういう仕事がいいのでは、下北はこういうところだからこういう仕事に就いてほしいということが、アンマッチングが起きるのではないかと考えていて、高校では

様々なことを学んで基礎的な学力をつけて、かつ、起業家精神、自分で仕事を作り出すことについて課題研究を通じて、実施していきたいと思っております。

(阿部委員)

地域の実態や子供達のニーズ等を見ていろいろな意見が出てきて、本当にうれしく思っています。

今、考えていることがひとつあり、それは県内6所管がある中でこの地域だけ拠点校がありません。他は拠点校を中心にみんなでいろいろなことを体験して行きましょ、学んで行きましょとしていますが、この地域にはそれがありません。今はオンラインが非常に充実しています。従って、拠点校にしてほしいという要望をするつもりはないのですが、オンラインでいろいろな学校や大学と繋がってほしい。県内他の拠点校と結び、座学に関しては開設している教科ではなくてもオンラインで学ぶことができるという方向性で新しい学校を運用していただけるのであれば、教科の数に限りがあると思いますが、併せて5学級規模の学校ですので、そういうことが確実にできるのであれば、10学級20学級規模の学校と同様の科目の開設、履修ができるのではないかと考えています。

簡単に申し上げると、県内の他の拠点校と確実に結んで、共通の履修を必ず行う、そうした方向性を検討していただければと考えています。

(岩淵委員)

聞いたことがある話ですが、昔から青森高校と八戸高校とが夏休み中に勉強の合宿をしてお互いに高め合っているそうです。

(阿部委員)

実際オフラインでみんなで集まって何かをする、子供達は集まるだけで刺激を受けてより頑張るので、そうした意味で学習だけに限らず、そのようなことは統合校にあっても期待される側面だと思います。

(又村委員)

事務局の資料の中に、「校長権限で地域と相談なく変わることはないよう、県教委として科目の保証が必要」とありますが、統合校が始まった時点でニーズが変わってきた場合、学校自体で県教委と相談しながら変える考えはあるのか。

(千葉委員)

いろいろと相談をしながら変えることは可能だと思います。

ただ科を変えることはできないけれども、どの授業を選ばせるとか新しい教科などは学校の中で話し合っ校長が決定すれば、基本的には大丈夫です。

(佐々木委員)

子供達の望む学科ということですが、現在の中学生や小学校高学年の子にはアンケートを

行ったことはあるのでしょうか？

(阿部委員)

どんな勉強がしたいか、どんな教科、科目がいいかを問うたことはこれまでありません。県教委が高校改革を進めるにあたって抽出してそのような調査をしている。その結果に関しては、ペーパーになってHPなどに載せていたかと思います。実際にそういう調査はあります。ただし、全体的なものになりますので、この地域の特異性があるかもしれませんので、そのようなアンケートをやる方向で検討してみたらどうかとご提言いただければ、私どものほうでかたちにすることができるかもしれません。

(横浜町教育委員会 小原教育長)

前回も出席させていただきましたが、横浜町はご存じのとおり、野辺地分校が廃校になって以来高校がありませんので、必然的に中学校を卒業しますといずれかの高校に進学する。かつては野辺地、六カ所、むつ下北、割とそれぞれの考えで通っていた状況でしたが、ここ数年は、むつ市中心に高校進学を希望する生徒が増えている。親御さんや子供達の進路選択の問題ですから、教育委員会でむつ市がいいよとは言わないわけですが、やはりむつ市、下北を含めて街づくりや活性化策などを非常に一生懸命やられていて、そういったことを隣町にいて子供達も含め感じる事が大きいのではないかと思います。商業的な部分でもむつ市に行くことが多いですし、私としては今日の項目にありますけれども、「子供達が望む学科、地域が必要とする学科」という中の「地域」というフレーズに横浜町を入れて、今後も話の中に入れていただければありがたいと思います。

それから、JR線の存廃問題で、大湊線の問題について現段階でいろいろと話し合いがありますが、統合校への通学の利便性、JR大湊線の人を運ぶだけではない様々な利活用策を下北総力をあげて考えていただくことで、活性化の延長上にはその問題も含まれていけばいいなと思っております。

小さな学校からむつ市の大きな高校に入学すると、聞いたこともない、体験したこともないような高校の部活動もあって、子供達にとって、どんなことをやっているのだろうかという夢を抱かせるわけで、むつ市の統合校検討委員会には非常に期待を抱いている。

地元の人だからこそ、これはこうしたほうがいいのかなど様々な意見があると思いますが、私としては期待が全てであって、できるだけ皆様のご意見を咀嚼して持ち帰って、いろいろなかたちで地元を提供していきたいと思っています。毎回呼んでいただいてありがとうございます。

(阿部委員)

続きまして、「子供達が行きたいと思える新校舎について」ご意見を伺いたいと思います。

(半田委員)

検討委員会の委員の名簿を見ますと、中学校のPTA関係者があまりいない。中学校の親

御さんの意見集約を実施していますか？

(阿部委員)

今の小学6年生が統合校の1期生となりますが、そこに対して地域としてアンケート調査はしておりません。必要があれば検討し実現されるものではないかと考えています。

(半田委員)

今の時代は多様性が求められている。子供は勉強ばかりではなく部活、運動、文芸を望んでいる。魅力ある部活を考える必要があると思います。だから親御さんや子供のこういう部活がほしいなどを調査したほうがいいと思っています。

(福山推進監)

アンケートという話がありましたが、現状取ったことはありませんが、市の高等教育を担当している企画調整課としては、大学や短大、サテライトキャンパスができて教育環境が大きく変わったことや、皆様に検討いただいている統合校が誕生するというタイミングですので、進路についてや就職に向かってどうやって高校を選ぶか、高校を卒業した後の進路先、大学卒業後の就職についてどう考えているかなどを聞いてみたいと内部で検討していたところです。

簡単なアンケートにはなりますが、早ければ今月中に問うてみたいと思っていました。今ご意見をいただきましたので早急に詰めて、年度内にアンケートを実施したいと思いますので、検討の段階ですがご報告いたします。

(阿部委員)

佐々木委員、半田委員からアンケートについてご意見をいただきましたが、企画調整課において検討中であるということをご理解いただければと思います。

(濱田委員)

事務局の資料に、統合校に関しては、ぜひ野球場と陸上競技場を別々にすべきと記載されていますが、陸上競技場に関しては、運動公園を使ってもらおうという話をむつ市から言われていたのですが、野球場に関しては、大湊高校は野球の強豪校でありますし、その特性を統合校へも引き継いでいただきたいと思っています。しっかりとした野球場がない状況ですので、これを機に統合校には立派な野球場を作っていただきたい。今いる子供達が市外に出ないような工夫については、スポーツもひとつだと思っていますし、下北の子供達に充実した教育を提供するには、設備が整っていなければどうしても難しいと思っていますので、スポーツもそうですし、そういう環境がないと他の地区へ行ってしまうということもありますので、グラウンドに関しては、しっかりと整備したものを提供してほしいと思っています。

(半田委員)

大湊高校とむつ工業高校が統合すれば、野球は青森県の中で3本の指に入ると思う。強い生徒を集めるためには宿舎などを完備しないと駄目。

(阿部委員)

部活動も重要なファクターであるので、施設設備等もしっかりと考えるべきではないかというご意見をいただきました。今日は学校施設課の方は来ていませんが、ぜひ伝えていただきたいと思います。

(内田委員)

子供達が行きたいと思えるような新校舎について校舎の核となる特徴であるとか、機能や設備についてですが、統合校を卒業する子供が社会に出る時、もしくはその子供が高校を卒業して大学に行って社会に出る時、現在より間違いなく働く人の人数が国内で不足します。すでに中央の企業では、映像による人材の募集をする時代になっています。現在だとそれぞれの子供が持つスマートフォンなどで、いろいろと社会と繋がりながら自ら興味を示す、行先を決めていくのだと思います。そこにおそらく我々大人が何か導いてあげようとしたときには、すでに子供の持つイメージが強いという部分があると思います。つまり、ぜひ新校舎には、全国でも有数の通信環境をしっかりと設置していただきたいと個人的に思っています。

クラスという箱の中で、先生が1人いて、その先生から教えていただくという、我々が授業を受けていた時のスタイルではなくて、ネット環境で他校の授業が見ることができるなど、学びの環境がいろいろと変わってきていると思っています。

学校の先生の人数によって子供達が受けられる学習科目の制限がどうしても出てくるのであれば、先生の数が県内で少なからうと、その距離はおそらく技術で乗り越えられると思います。特に下北は県内でも離れた場所だと思いますので、通信環境の部分については今から、機能設備をお願いしたい。

また、ハード面の話は、次のその他になるかもしれませんが、関連することですので、お話ししますが、それができればおそらく子供達が自分でいろいろな企業に発信するとか、インターンも映像の中でやることができるなど、いろいろなことができると思います。社会がどんどん変化していくことについて、学校教育といったカテゴリーの社会の中だけではなくて、我々産業界、民間の中でもそういった部分でだいぶ風に当てられているので、変わらなければとっていて、そこを少しリレーションできるような仕組みがあれば、おそらく子供達にとってみると、今までの学校とはちょっと違うのではないかと目に映って、魅力的に見えるのではないかと感じております。

(木村委員)

職業柄電気関係の仕事をしてしておりますが、今日本は災害が非常に多いです。できれば災害に強い学校ができてほしい。各小学校には発電機と太陽光が設置されていて、今現在むつ工業高校にも太陽光発電が設置してありますが、例えば避難する場所については高台でいいか

など思っていますが、今はごく一部でしか電気が使えない状態になっています。

また、発電機という部分でも気候変動の中で、夏場とかを考えた時に、そうした設備があって、地域の皆さんも集えて、それが電気機械設備等全ての学科に関わる部分で勉強できるのもひとつありますので、そういったものができてくれたらいいなと思います。県内見てもこのような学校は無く、エネルギーに特化して設置していただければ、工業高校としての特色という部分、総合学科の生徒にも素晴らしい技術があることが見せられるのかなと、そういう学校だったらいいなという提案でございます。

(佐々木委員)

大湊高校にあって、統合校にないものを考えてみましたが、大湊高校の場合、生徒会館が食堂になっていて、業者が入ってお昼に作っていますが、統合校はそういう食堂の話は全くありません。今共稼ぎの親が多くなっていて、お弁当を持って来ることができない子供が多いと思いますが、食堂を作るためには、生徒会館か何かを後援会などで作ってそちらに業者を呼ぶしかないのでしょうか。それとも学校の中に入れることができるものなのでしょうか。

(高等学校教育改革推進室 外崎室長)

学校のスタイルや、生徒が何を望むかにもよりますが、パターンとしてお聞きいただければと思いますが、校舎の一部を業者に貸して、来てもらって、物販をしているケースもあります。パンや弁当などを売っていて先生が利用することもあります。それから、生徒会館があれば、大湊高校のようにそこで調理する場合もあります。業者が調理後のものを持ってきて、生徒会館で物販する場合もあります。どういったものがその学校にふさわしいのかということになるかと思います。

(阿部委員)

「その他」に移りたいと思います。ご意見等がありましたらお願いいたします。

(佐井中学校 工藤校長)

佐井村の現状をお伝えしたいと思います。

佐井村はご存知のとおり、むつ市の学校に通学するにしても通うことができないので下宿が必要という現状がございます。今年度の中学3年生は14名いますが、その中でむつ市内の学校を希望している生徒は2名です。ただ最初から選択肢に入っていないわけではなく、大湊高校の陸上をやりたいという子が何人もいたのですが、私立高校の特待制度や寮があることが判断の大きな材料となっている気がいたします。

やはり、経済的負担が大きくなりますので、全国から生徒を集められるよう寮とかの施設を完備してもらえると通いやすいのではないかと思います。

(濱田委員)

今のむつ工業高校のグラウンドの件で、検討していただきたいことがあります。

先日むつ工業高校で生徒達の発表会があり、訪問したときにグラウンドに実質調査が入っていて工事車両が出入りしている状態でした。これはこの先続くのだろうなと思って見ていました。そうなった場合、今は雪が降っていてグラウンドはほぼ使っていないと思いますが、これから春にかけて野球や陸上などの部活の活動が始まりますが、その中で工事に向かっているということで、当然野球部や陸上部が活動ができず、もしかしたら制限がかかるのかなと思っています。

陸上に関しては、運動公園の陸上競技場を使っていいたいという話があったので、心配はしていませんが、野球場に関しては、野球部の子がこれから練習する場所が無くなってしまいます。これに関しては、むつ市へのお願いになるかもしれませんが、運動公園は硬式野球ができないですよね。息子が中学校で野球をやっていて、いろいろと話を聞くと、やっぱり硬式野球をやる環境を整えてほしいというお願いは個々にしていて、今実際こういう状況なので、学校統合の話なので、県教委もむつ市の方も本気で考えていただきたい。

むつ工業高校の野球部に、運動公園で野球をやってくださいと言われても硬式野球はやることはできないので、今の子供達や春に入学する子供達はきっとグラウンドで野球ができないのかなと思います。グラウンドで野球ができない状態で3年間過ごして卒業する可能性がある中で、その子供達のため、これから入学する子供達のためにも今からグラウンドはどこを使うのかということを実際に考えていただきたいと思います。運動公園でやることができれば自転車で通うことができるし、一番いいのですが硬式野球はできませんので、青森県とむつ市で検討していただきたいです。

(半田委員)

それに関して、市に聞きたいのですが、大湊バイパスはいつ完成するのでしょうか？

(福山推進監)

県のほうで完成時期は示していない。

こちらで聞いてはいるが示されていない状況です。

(半田委員)

硬式の練習は、大湊高校とむつ工業高校のグラウンドだけでできる。むつ工業高校のグラウンドは工事が始まれば使えません。バイパスができれば大湊高校まで直線で5kmくらいだと思いますが、ちょうどランニングにいいなと思いますが、いつ頃できるのか。バイパスができれば大湊高校のグラウンドまで走って行き、大湊高校で練習してもいいのかなと思っている。

(木村委員)

1月31日にむつ工業高校で生徒研究発表会があって参加しましたが、生徒の皆さんの頑

張っている姿、成果が素晴らしかったです。その後の取組について、市内の中学校の皆様に来て見ていただけたらいいのかなと思います。大湊高校でもそのような発表会がありますよね。そういうものを下北郡の中学生、例えば2年生とかに見学をしていただいて、こんなことをやっているということ、もう一度見ていただいて、選択の幅を広げる活動ができないのかなと思っています。おそらく市役所でバスを出してくれると思いますので、検討していただけないかなと思います。統合に関してこれから繋いでいくためにということで、ご提案をさせていただきます。

(阿部委員)

高校選択の一助となると思います。

その他、特になければ、石田委員が今回から参加されていますので、ご感想で結構ですので一言差し支えなければお聞かせください。

(石田委員)

むつ市連合PTAから、今回初めて参加させていただきました。田名部中学校PTAの会長をやっております石田と申します。上の子は高校生で、下の子は統合校には関わりはありませんが、これから統合校に関わるお父さんお母さん達は、興味、関心を持っていると思い、今回引き受けさせていただきました。

先ほど、水産課の話もありましたが、地元の建設業などがYouTubeで配信をしていて働き手を今募集していて、どうしたら地元の子供達が残ってくれるかを話題にしていたので、子供達が残れるような教科があれば、先生も不足していると聞いていますし、オンラインなども進んでいますので、いろいろな事が経験できて、選択肢が増えるような学校になっていただければと思います。

(東通村教育委員会 奥島教育長)

この会議の前の改革についてのいろいろな会議には参加させていただいておりましたが、子供達にとって教育環境が一番大事だと思います。今日出た中でやはり子供達の人数によって先生方の配置が限定されても、それでも子供達の選択肢が広がるようなオンライン授業で県内各地とか県外とかいろいろな場所で繋がれるような学習ができる教育環境設備を整えていただくことが大事だと思います。

東通村は尻屋線が廃止になって、子供達を高校にどう通わせようかと本当に大変でした。子供達にとって安心して学校に通う環境が大事だと思います。

(佐井村教育委員会 山本生涯学習課長)

今回第3回目ということで、貴重な討論、ご意見を拝聴させていただきました。

佐井村の状況といたしましては、先ほど佐井中学校の工藤校長からお話がありましたが、近年は下北に関わらず県内の高校選択の幅がとても多様化している状況です。そういった要因もありますが、当然佐井村にとってもむつ市内の高校はまず第1の選択肢の中に入ってき

ますので、興味深く統合校の推移を見守っていきたいと思っております。

令和9年度の開校にむけて、最終的には県の開設準備委員会での議論を経て県が決定していくと思いますが、検討委員会において県に要望するという形になるかと思いますが、全てを受け入れてくれるとは限らないと思っております。そこからこぼれ落ちた部分などが今後下北管内の市町村で取り組んでいけるもの、支援できるものも今後考えられますので、これまでの議論、検討課題を進める中で徐々に方向性を早めにつめていただけると市町村の動きというものも迅速に進めて行くことができるのではないかと感じております。今後ともよろしくお願いいたします。

(阿部委員)

ありがとうございました。

本日、皆様から発表いただいたご意見等につきましては、事務局において次回に向けて整理をするようお願いします。

また、県教育委員会の皆様におかれましては、いつもたくさんお越しいただいて心から感謝を申し上げます。私どもの意見を教育委員の皆様へ伝えていただき、下北地域の声を届けていただきますようお願いいたします。

(外崎室長)

貴重なご意見をありがとうございました。

これまで、この検討委員会の中で2年前に開設する開設準備委員会、前年度に開設する開設準備室の前倒しについてご意見をいただいております。

様々地域の声を踏まえまして、開設準備委員会の委員を構成員とする会議を来年度令和6年度に設置することを検討しております。会議自体の中身はこれからとなりますが、ご意見がありました前倒しにつきまして、2年度前に開設する開設準備委員会に繋ぐという意味で、県で設置したいということを検討していますのでご報告いたします。

(阿部委員)

ただいまの話は、私どもがお願いをした、本来であれば叶えることが非常に難しい県の組織の前倒しを今検討してくださっているということですので、心から感謝を申し上げます。

以上をもちまして、予定されていた議事が終了いたしましたので、進行を終了させていただきます。本日は皆様ありがとうございました。

7. 閉会